

1. 課題番号 : 27指6
2. 研究課題名 : 東南アジアにおける看護の質担保をめざした人材開発管理制度の整備過程モデルに関する研究
3. 主任研究者名 : 橋本 麻由美
4. 分担研究者名 : 橋本 麻由美、野中千春、須藤恭子
5. キーワード : 看護の質の担保、看護人材開発、Nurse Migration、継続教育、アセアン看護相互認証

6. 研究成果

【背景】東南アジア地域では、ASEAN（東南アジア諸国連合）加盟国署名の看護相互認証制度を目指した取り組みが活発化である。後発国とされるカンボジア・ラオス・ベトナム・ミャンマー（CLMV）では、相互認証の前提条件となる制度整備が課題であり、日本は政府開発援助による支援を行っている。一方、域内における Nurse migration が懸念される状況にある。

- 1) ラオスにおける法規に基づく看護人材の質の担保をめざした制度整備に関する研究（橋本班）  
ラオス保健省は法規によりラオスの看護人材を保健医療分野の専門職として明確に位置づけた。先行研究では、専門職は内的変化として役割に関連した主観的な自己概念の形成という経験を経て専門職として必須の職業的アイデンティティを形成することが明らかになっている。本研究の目的は、ラオスの看護のリーダーが看護に関する法規整備を通して経験した専門職としての内的変化のプロセスを明らかにし、今後のラオスの看護人材の質の向上への方策と開発途上国における法規整備支援のありかたを探ることである。平成 27 年度は、文献検討と、国立国際医療研究センターならびにラオス保健医療分野の倫理委員会への申請を行った。平成 28 年度はラオスの看護のリーダー 28 名を対象にインタビュー調査を実施し、現在分析中である。加えて、CLMV を対象に看護人材の質の担保をめざした制度整備に関する記述研究を行い、学会発表と 2 本の論文発表を行った。さらにアセアン加盟国の看護相互認証に関する動向と課題をオピニオンとしてまとめ、発表した。平成 29 年度は論文とする予定である。
- 2) 日本の看護実習施設における実習体制および院内教育の体制の変遷と整備過程に関する研究  
平成 27 年度は、日本の国立病院における看護教育（実習体制・院内教育）の変遷について文献レビューを行った。加えて、ラオスにて、看護師の基礎・継続教育に関する予備調査を実施し、国内学会で発表した。H28 年度は、2007 年に国立病院機構で開発された『看護職員能力開発プログラム：Art Create Theory ナース』に関する文献レビューと、プログラムを開発した 6 名にフォーカスグループインタビューを実施した。現在、分析中である。平成 29 年度は、インタビュー結果を、ラオス側と協議するためのワークショップを行い、報告書としてまとめる予定である。
- 3) 東南アジア域内における Nurse migration による看護の質への影響  
ASEAN の看護職の相互認証協定の目的のひとつは、域内移動の活発化であるが、一方、Nurse Migration も懸念される。平成 27 年度は、文献検討により Nurse Migration の活発化には時間を要することと看護教育や看護実践の充実は一部 ASEAN 相互認証協定による影響であることも明らかにした。平成 28 年度は、国立国際医療研究センターの倫理委員会の承認を得て、タイに修士以上の学位取得のため留学している CLMV およびインドネシア、フィリピンの看護師で自国においてリーダー的な立場にある者を対象に、看護教育と看護実践の状況、2006 年 MRA 締結後からの変化、今後の Nurse Migration の予測に関して個別インタビューを実施した。成果は国内外の学会で発表した。29 年度は、インタビュー調査の継続と分析、ASEAN 域内の Nurse Migration に関するドキュメントレビューの論文投稿、インタビュー調査結果の論文投稿準備を予定している。

Subject No. : 27 A 6  
Title : Study on improvement of nursing quality in South East Asia  
Researchers : Mayumi Hashimoto, Chiharu Nonaka and Kyoko Sudo  
Key word : Quality assurance system for nursing, Human resource for nursing, Nurse migration, Continuous nursing education, ASEAN Mutual Recognition Arrangement on Nursing Services

#### Abstract

- 1) Development of quality assurance system for nurses based on regulations in Lao PDR: The study is qualitative research to clarify the experimental transition process as professional self-concept of nursing leaders in Lao PDR. The study was approved by NCGM Ethics Committee and Lao National Health Research Ethics Committee, and the interview was conducted with 28 nursing leaders who contributed developing nursing regulations in Lao PDR. The data has been analyzing. In addition, documents review was conducted to analyze current situation on legal frame for nursing in Cambodia, Lao PDR, Myanmar and Vietnam (CLMV). It was revealed that CLMV had a lot of achievements about regulatory framework last decade. The ASEAN MRA on Nursing Services has enhanced the nursing profession at the ASEAN regional level as well as at the national level, but some challenges have been remained. The findings were presented at an international nursing conference and published on a journal. The opinion on professional nursing development in ASEAN region is published in 2017.
- 2) Chronological changes on practical education system for nursing students and in-service training system for nurses at public hospitals in Japan: In 2015, literature review was conducted and the researchers visited Lao PDR to conduct interview about practical education system for nursing students and in-service training system for nurses at a public hospital at a central hospital. The summary of interview with Laotian nurses about in-service training situation was presented at a domestic nursing conference. In 2016, the documents regarding “Art create theory nurse” which was developed as an in -service training program for nurses at national hospitals were reviewed and conducted interview with six senior nurses who contributed to develop the training program. The data has been analyzing.
- 3) Influence of quality of nursing by nurse migration within ASEAN Member Countries: Reviewed official documents and nursing association/ council web sites regarding pre- service nursing education, professional experiences and licensing. Each ASAN Member Country has been developing official documents on professional nurse competency and requirements for foreign nurse who would like to work as professional nurse in host country, and make efforts to rise academic level aiming for competent nurse. MRA facilitates the improvements of quality of nursing. It will take more time to mobilize nurses within ASEAN Member Countries, because the requirements of foreign nurses, nursing education system, health system and health issues in ASEAN Member countries are diverse. The findings were presented at an international conference and a domestic conference. In 2016, The Individual interviews were conducted with nurses who were from CLMV, Indonesia and Philippines to obtain master’s degree for nursing in Thai land. The data has been analyzing.

## 【27指6 目的】

ASEAN加盟国にて急速な整備が進む看護人材の開発管理制度と域内の人材の移動を分析し、看護の質担保をめざした整備モデルを提示する。

### 【ASEAN域内】

看護人材の移動と看護の質への影響(須藤班)

### 【ASEAN後発4カ国】

カンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナムの看護人材の質の担保制度整備状況の分析(橋本班)

### 【ラオス】

看護人材の質の担保制度整備過程の分析と整備モデル(橋本班)

### 【日本】

の実習病院の院内教育体制の変遷をまとめる(野中班)

ラオスの中央病院の院内教育体制整備への参考

# 27指6 研究概要

	看護人材に関する制度 (橋本分担)	看護学実習施設における教育体制 (野中分担)	Nurse Migration (須藤分担)
27年度 (1年目)	東南アジア(ラオス、ベトナム、カンボジア、ミャンマー)における看護人材の質の担保制度整備を俯瞰的に記述した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の国立病院における看護教育の歴史と看護教育課程に関する政策の推移について、文献レビューを行った。</li> <li>ラオスの現在の看護学実習施設における実習体制、病院での院内教育の実際を情報収集し、課題を明らかにした。</li> </ul>	文献検討により東南アジアのNurse Migrationの現状を調査した。
28年度 (2年目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラオスの看護人材の質担保制度の整備過程に関して、ラオスの看護のリーダーたちに半構造化インタビューを行い質的に分析中。</li> <li>文献よりASEAN看護相互認証制度の動向と課題をまとめた。</li> </ul>	国立病院機構で開発された『看護職員能力開発プログラム』に関する文献レビューと、プログラム開発者らに開発に至った経緯をフォーカスグループインタビューを行った。分析中。	カンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナムにおいて、看護教育と看護実践の状況、アセアン看護相互認証署名後の変化、Nurse Migrationの予測に関するインタビュー調査を実施した。
28年度 (3年目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>質的研究により看護人材の質の担保をめざした 制度整備過程モデル化する。</li> </ul>	国立病院機構の『看護職員能力開発プログラム』開発過程からの知見をラオス側と協議し、モデル化する	東南アジア諸国のNurse Migrationの状況と各国の看護の質への影響検証する。

## 【 成果(論文掲載/学会発表)】

- 看護とUHC-すべての人に保健医療サービスを届けるための看護人材開発、橋本麻由美、五十嵐久美子、田代順子、橋本千代子、国際保健医療、第30巻第3号、P.251-P.264、2015年9月
- 東南アジア4か国を対象に実施した看護教育制度に関する本邦研修の評価・課題・教訓、橋本麻由美、藤田則子、森山潤、深谷果林、国際保健医療、第32巻第2号、P.83-P.93、2017年6月
- Toward Further Professional Development of Nursing in ASEAN, Mayumi Hashimoto and Noriko Fujita, JOJ Nurse & Health Care, 555582, Vol2, No2, 2017
- ASEAN加盟国の看護人材相互認証協定への取り組みに関する文献検討、成瀬和子、須藤恭子、第30回日本国際保健医療学会学術大会プログラム・抄録集、P137、2015年11月
- Situation Analysis of Regulatory Framework for Professional Nursing in Low- Middle income countries Southeast Asia, Mayumi Hashimoto, 6th World Nursing and Healthcare Conference-2016, ロンドン、2016年8月
- The standardization of nursing services by the Mutual Recognition Agreement of ASEAN Member Countries, Kyoko Sudo, Kazuko Naruse, APACHPH2016, 東京、2016年9月
- ラオス人民共和国の国立マホソット病院における継続教育の視察報告、前田愛子、高坂麻里子、上村一郎、野中千春、佐藤千春、第14回国立病院看護研究学会、熊本、2016年12月

課題番号 : 27指6  
研究課題名 : ラオスにおける法規に基づく看護人材の質の担保をめざした制度整備に関する研究  
主任研究者名 : 橋本 麻由美  
分担研究者名 : 橋本 麻由美  
キーワード : 看護、法規、制度整備、ラオス、アセアン看護相互認証

## 研究成果

東南アジア地域においては、2006年のアセアン加盟国による看護相互認証への署名後、看護人材の質の向上や担保をめざして看護に関する法規ならびに制度整備が活発化している。ラオス保健省は日本の政府開発援助の支援を受け、「看護助産規則」や「看護業務範囲ガイドライン」等、多くの成果を挙げている。ラオスの看護人材は、法規により保健医療分野の専門職として明確に位置づけられた。策定された法規は、ラオスの看護のリーダー達が、自国の看護や看護師の業務範囲、職業倫理等の協議を重ね草案された。先行研究では、専門職は内的変化として役割に関連した主観的な自己概念の形成という経験を経て専門職として必須の職業的アイデンティティを形成することが明らかになっている。ラオスの看護のリーダー達は、法規制定の取り組みにより専門職としての内的な変化を経験したことが事業報告書から推察されるものの、これらに関する研究報告はない。本研究の目的は、ラオスの看護のリーダーが、看護に関する法規整備を通して経験した専門職としての内的変化のプロセスを明らかにし、今後のラオスの看護人材の質の向上への方策と開発途上国における看護人材の質の担保をめざした法規整備支援のありかたを探ることである。

平成27年度は、専門職としてのプロフェッショナルアイデンティティ形成や看護に関する法規制定に関する文献検討と、国立国際医療研究センターならびにラオス保健医療分野の倫理委員会への申請を行った。倫理委員会承認後に予備調査を行い、平成28年度に調査協力が得られたラオスの看護のリーダー28名を対象（看護行政官9名、看護管理者15名、看護教員4名）に半構造化インタビュー調査を実施した。日本語での逐語録を作成し、これをデータとして、現在分析中である。

加えて、アセアン加盟国における看護相互認証への取り組み、特に後発国のカンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナムの看護人材の質の担保をめざした制度・法規整備に関する記述研究を行い、論文発表（下記成果①と②）と学会発表（下記成果④）を行った。さらに記述研究にて得られた結果を合わせて分析し、アセアン加盟国の看護相互認証に関する動向と課題に関してオピニオンとしてまとめ、投稿して掲載された（下記成果③）。東南アジア地域では、アセアン加盟国の看護相互認証制度への取り組みの影響を受け、地域ならびに加盟国の国レベルにおいて、看護が専門職として強化されてきている一方、課題は、免許登録制度構築を目指した組織的能力強化、看護教育の体制強化、看護教員的能力強化、文化的コンピテンシーの習得、継続教育体制整備が挙げられる。

平成29年度は、分析終了後に簡易結果をラオス側にフィードバックし、ラオス側からの意見も反映させ、論文とする。

### 【論文掲載と学会発表】

- ① 橋本麻由美、五十嵐久美子、田代順子、橋本千代子、「第29回日本国際保健医療学会学術大会合同ミニシンポジウム看護とUHC-すべての人に保健サービスを届けるための看護人材開発-報告」、国際保健医療、251-263, Vol. 30, 3, 2015
- ② 橋本麻由美、藤田則子、森山潤、深谷果林「東南アジア4か国を対象に実施した看護教育制度に関する本邦研修の評価・課題・教訓」、国際保健医療、83-93, Vol 32, No2, 2017
- ③ Mayumi Hashimoto and Noriko Fujita. "Toward Further Professional Development of Nursing in ASEAN". JOJ Nurse & Health Care. 555582, Volume2, Issue 2, Jun 2017
- ④ Mayumi Hashimoto, Situation Analysis of Regulatory Framework for Professional Nursing in Low- Middle income countries Southeast Asia, 6th World Nursing and Healthcare Conference-2016, 16th August 2016, London

課題番号 : 27指6

研究課題名 : 東南アジア域内におけるNurse migrationによる看護の質への影響

主任研究者名 : 橋本麻由美

分担研究者名 : 須藤恭子、成瀬和子（協力研究者）

キーワード : Nurse migration、看護の質、ASEAN MRA on Nursing service、看護人材不足  
研究成果 :

ASEAN（東南アジア諸国連合）では、2006年から看護職の相互認証協定（Mutual Recognition Agreement, MRA）を締結している。看護職のMRAの目的のひとつは、域内移動の活発化であるが、MRAにより看護職の教育や労働環境などのシステムが整備されることで、東南アジア地域の看護職の能力強化や看護の質の担保及び向上につながるものとして期待されている。さらに、ASEANでは2015年のASEAN経済共同体（AEC）発足に伴い専門職の国際労働の自由を認めている。看護人材の移動（Nurse Migration）は、ASEANに加盟する国々と二国間協定を結び看護人材を受入れる日本にも影響があると考えられる。日本は、ASEAN+3として、また日・ASEAN健康イニシアティブを表明し今後ますます保健医療人材育成等においてASEANへの支援や連携強化が求められることから、ASEAN域内のNurse Migrationの動きは日本にとっても看過できないと考える。さらに、ASEAN+3の日本、韓国、中国の3カ国は、ともに高齢化が非常に深刻な国で、ASEAN域内だけでなくこれら近隣諸国へのNurse Migrationも懸念されるところである。今後、看護人材が不足する中で少子高齢化は進み保健医療へのニーズはさらに高まっていくが、ASEAN看護サービス相互認証協定により看護教育や看護実践が充実することによって将来的な看護人材の移動促進が起こるのかを検討する必要があると考える。

27年度、特に看護関連法規と看護教育内容の充実が顕著であるものの、「ASEAN域内の看護人材の移動促進」に関しては外国人看護師受入れ要件のみで、ASEAN MRAのアウトカムであるNurse Migrationの活発化には未だ時間を要することを明らかにした。また、看護教育や看護実践の充実といったインプットは一部ASEAN MRAによる影響であることも明らかにした。これは、研究当初予測していたこととは異なる点ではあった。これらの研究結果により、ASEAN MRAによる影響の多寡は不明であるがインプットは明らかであり、それによる看護師の意識変化が将来的なNurse Migrationをもたらし可能性はあると考えた。しかし、これまでにプロセスとアウトプットまでは明らかにすることができなかったため、実態を明らかにする必要があると考える。

そこで、28年度当初、看護関連法規と看護教育内容の充実といったインプットがどのように実践されているか、つまり実際の教育および現場でどのようになっているかの実態を明らかにしようと考えたが、研究規模を考えると多国における実態調査の実現は困難と判断した。そのため、最終的にASEANの看護師に対する個別のインタビューから、看護教育と看護実践の状況、2006年MRA締結後からの変化、今後のNurse Migrationの予測に関する情報を収集することとした。先行研究から、ASEAN域内でも高所得国であるブルネイとシンガポール、高位中所得国であるマレーシアとタイはNurse Migrationの受け入れ国であることが明らかとなっている。そのため、本研究対象者は、ASEANで最も看護教育と実践がすすんでいる国のひとつで、且つCLMV（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）からの労働者が最も多いタイに修士以上の学位取得のため留学しているCLMVおよびインドネシア、フィリピンの看護師で、自国で看護基礎教育を受け看護師として働いた経験のある者とした。対象となる者は、自国においてリーダー的な立場にあり自国の看護を取り巻く状況に精通し、また将来その国の看護を担う者であると予測された。インタビュー調査実施前に、NCGM倫理審査委員会により承認を得た。28年度は4カ国5名に対してインタビューを実施した。

29年度は、インタビュー調査の継続と分析、ASEAN域内のNurse Migrationに関するドキュメントレビューの論文投稿、インタビュー調査結果の論文投稿準備を予定している。

課題番号 : 27 指 6

研究課題名 : 開発途上国の看護人材開発管理制度整備支援に向けた研究

分担研究課題 : 日本の看護実習施設における実習体制および院内教育の体制の変遷と  
整備過程に関する研究

主任研究者名 : 橋本 麻由美

分担研究者名 : 野中 千春

キーワード : 国立病院 (国立病院機構)、院内教育、継続教育、

研究成果

H27年度は、日本の国立病院における看護教育(実習体制・院内教育)の変遷について文献レビューを行った。その結果、1947年、全国17か所の国立病院にて甲種看護婦養成を開始したのは確認できたが、新人教育・現任教育の開始時期は明らかにすることはできなかった。一方、ラオスに渡航し、看護師の基礎・継続教育の現状について予備調査を実施した。国立マホソット病院では、2005年に提示された『看護業務ガイドライン』を基に、プロフェッショナルナースの育成を主眼に継続教育を行っていたが、他の3つの国立病院によっては『看護業務ガイドライン』が活用されておらず、院内教育体制の体系化が難しいといった課題があることが分かった。

H28年度は、H27年度の結果をもとに、日本における国立病院の院内教育の体系化の変遷について再度文献レビューを実施した。その結果、2007年に国立病院機構で開発された『看護職員能力開発プログラム:ACTy(Art Create Theory)ナース(以下、ACTy ナース)』に関する文献653件のうち、本研究目的に関連した内容の論文16件を吟味したところ、ACTy ナース活用や評価に関する記述はあるものの、開発に至った経緯に関する記述は乏しかった。そこで、ACTy ナースを開発した6名に対しフォーカスグループインタビューを実施した(H29/3/26)。現在、インタビュー内容を分析し、結核・考察を纏めている段階である。

H29年度は、インタビュー結果を、ラオス側と協議するためのワークショップを行う予定である。ワークショップの事前準備のため、渡航し国立マホソット病院の関係者と日程調整を行い、9/19にワークショップを行う方向で準備中である。

研究発表及び特許取得報告について

課題番号： 27指6

研究課題名： 東南アジアにおける看護の質担保をめざした人材開発管理制度の整備過程モデルに関する研究

主任研究者名： 橋本 麻由美

論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
第29回日本国際保健医療学会学術大会合同ミニシンポジウム看護とUHC-すべての人に保健サービスを届けるための看護人材開発 - 報告	橋本麻由美、五十嵐久美子、田代順子、橋本千代子	国際保健医療	251-263, Vol. 30, No3	2015年
東南アジア4か国を対象に実施した看護教育制度に関する本邦研修の評価・課題・教訓	橋本麻由美、藤田則子、森山潤、深谷果林	国際保健医療	83-93, Vol 32, No2,	2017年
Toward Further Professional Development of Nursing in ASEAN	Mayumi Hashimoto and Noriko Fujita	JOJ Nurse & Health Care	555582, Vol2, No2	2017年

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
Situation Analysis of Regulatory Framework for Professional Nursing in Low- Middle income countries Southeast Asia	Mayumi Hashimoto	6th World Nursing and Healthcare Conference-2016	ロンドン	2016年8月
ラオス人民共和国の国立マホソット病院における継続教育の視察報告	前田愛子、高坂麻里子、上村一郎、野中千春、佐藤千春	第14回国立病院看護研究学会	熊本	2016年12月
ASEAN加盟国の看護人材相互認証協定への取り組みに関する文献検討	成瀬和子、須藤恭子	第30回日本国際保健医療学会学術大会	金沢	2015年11月
The standardization of nursing services by the Mutual Recognition Agreement of ASEAN Member Countries	Kyoko Sudo, Kazuko Naruse	APACHPH2016	東京	2016年9月

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日
該当なし				

特許取得状況について ※出願申請中のものは( )記載のこと。



研究発表及び特許取得報告について

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国
該当なし				

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。

※主任研究者が班全員分の内容を記載のこと。